

1 語 順



単語がいくつか集まると文ができます。たとえば、「太郎君」「が」「花子さん」「を」「追いかけた」という5つの単語をそのままの順で並べると、

(1) 太郎君が花子さんを追いかけた

という文ができます。

しかし、同じ5つの単語を使っても、並べ方を変えると文にはなりません。たとえば、

(2) を太郎君追いかけたが花子さん

では、文にはなりません。

つまり、単語を使って文を作るには、単語の並べ方に決まりがあって、その決まりにしたがわないと、文にはならないのです。単語の並べ方、つまり、順序を、「単語の順序」という意味で、「語順」と言います。また、ことばの決まりを「規則」とか、「ルール」と言います。

クイズ

カードを5枚用意し、「太郎君」「が」「花子さん」「を」「追いかけた」の5つの単語を1枚に1単語ずつ書いてください。

その5枚のカードをいろいろと並べ替えて、それぞれの並べ方で、文になるか、ならないかを調べてみましょう。そして、語順について、どんな決まりがあるのかを考えてみましょう。

こんな語順のものもありましたね。

(3) 花子さんが太郎君を追いかけた

これもちゃんとした文です。でも、(1)とは意味が違います。(1)では、太郎君が追いかける人で、花子さんが追いかられる人です。(3)では逆に、花子さんが追いかける人で、太郎君が追いかられる人です。

こんな語順も試してみましたか？

(4) 花子さんを太郎君が追いかけた

語順は(1)と違いますが、(4)もちゃんとした文ですね。しかも、その意味も(1)と同じです。

このように、語順が変わると、文にならなくなったりする(2がその例)するだけでなく、その意味が変わってしまったりすること(3がその例)もあります。しかし、語順を変えても、その意味が変わらないこと(4がその例)もあります。

クイズ

(3)のように意味が変わってしまってもかまいませんから、上の5枚のカードの並び替えて文となるのはどのような場合かを考えてみましょう。